

2005.5.16

2005年新潟県中越地震被災地 雪解け後の状況調査

太田@太田ジオリサーチ

調査期間：2005年5月13日～15日

調査団体：土木学会斜面工学研究小委員会（山梨大学 後藤聡委員長以下14名の調査団）

研究テーマ：新潟県中越地震の斜面複合災害のモニタリングに関する研究

- メカニズム、維持管理、景観、生態系、廃棄物等の総合的斜面工学からの検討 -

氏名	所属
青木正雄	日本大学
稲垣秀輝 斜面災害G代表	環境地質
岩佐直人	日鐵建材工業
太田英将	太田ジオリサーチ
柏熊誠治 (太田委員の共同研究者)	千代田器材
後藤聡 委員長	山梨大学
櫻井正明	林業土木コンサルタンツ
佐々木寧 生態系G代表	埼玉大学
外狩麻子	J R東日本
友利方彦 (島村委員の代理)	J R東日本
中濃耕司	砂防エンジニアリング
中野裕司 斜面と景観G代表	中野緑化工技術研究所
中村洋介 (田村委員の代理)	立正大学
平田文	日特建設

調査日程：5月13日 旧山古志村 大規模河道閉塞箇所その後を確認

(東竹沢地区、十二平地区、種芋原地区、寺野地区ほか)

5月14日 旧山古志村内～小千谷市

(旧山古志村南平周辺、榎木地区、池谷地区、大久保地区、小千谷市小栗山周辺)

5月15日 長岡市～魚沼市

(長岡市濁沢町、蓬平地区、魚沼市竜光地区周辺、J R上越線沿線)

以下の位置図は、<http://japan.landslide-soc.org/2004tyuuetu/member/DistributionMap.gif> (八木ほか) を引用した

1) 大規模河道閉塞箇所の状況 (東竹沢)



被災直後 (2004年10月)

2) 大規模河道閉塞箇所(寺野地区)



3) 旧山古志村南平周辺(宅地を中心に)



宅地の変状は盛土部に集中している



宅地の変状は、盛土や斜面肩部に集中しており、旧山古志村独特の被災ではなく何処でも起こりうるものである。

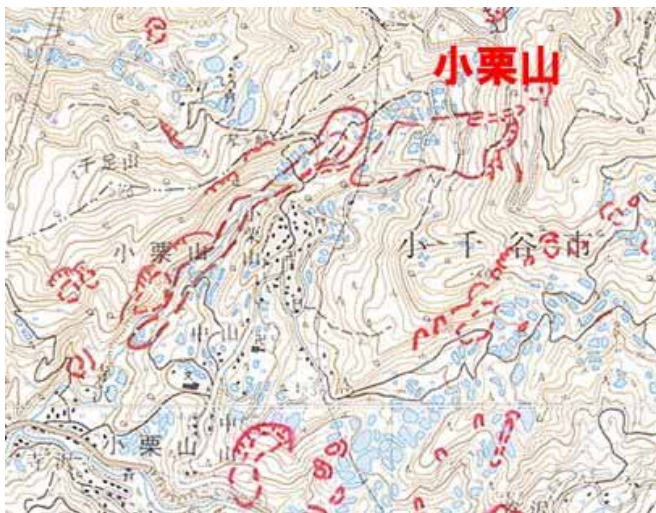


急斜面部の表層は軒並み崩壊し、そこに繁茂していた草木とともに溪流に崩落している。雪解けで崩壊は拡大し、表面土砂の移動が収まっていないため植生はまだ回復していない。

4) 小千谷市小栗山の崩壊



層理面沿いの流れ盤すべりで、地すべりの構造は東竹沢の河道閉塞箇所と同じである



砂防ダムに捕捉された土砂

5) 長岡市白岩の流れ盤すべり





完全な形の層理面スベリ（平面スベリ）

6) 長岡市蓬平～濁沢



蓬平（宅地盛土部の崩壊）



濁沢（地すべりにより2名死亡）



7) JR上越線沿線(天王付近)



8) 魚沼市(旧堀内町)竜光付近の長距離移動した崩壊



地名の竜光は、もともと竜口であり、竜(土石流)の口(出口)を意味する。

